

日時	2021年1月23日（金） 19～時21時30分 （150分）
概要	ほんやく鑑賞
	知ったか大学ゼミ生に実施
場所	オンライン
参加者	16名
鑑賞作品	オディロン・ルドン 「シータ」 https://www.artic.edu/artworks/80594/sita



<参加者準備物>

- ・メモ用紙
- ・ペン

*ZOOMと同時に使えるのなら、タブレット・スマホのメモ機能でも可能

時間	内容	詳細	時間	経過
18:30	スタッフ入室	スタッフの役割＝ 入室管理・コメントチェック・記録・画面ピン留め		
18:55	開場	参加者に通し番号を付け、名前番号に変更する。		
19:00	挨拶（遅刻者待ち）	19：05まで遅刻者を待ちつつ、流れ説明、持ち物・マイクチェック	10	10
19:10	ウォームアップ	<p>手話についてレクチャー</p> <p>言葉との距離を取りながら鑑賞する方法の一つとして、今回は手話を出発点にする。</p> <p>手話知っている・できる人いますか？＝いなかった</p> <p><ウォーミングアップ手話クイズ> 手話ゲストに、ある関連する3つの言葉を手話で表してもらい、その答えをチャットに書き込んでもらう。 (正解は「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」)</p> <p>答えがわかったら、今度はそれぞれの動きが何を表しているのかを考えて、チャットに書き込む。 感覚的な動きと意味の連動、関係性を掴んでもらう。</p> <p>今度は逆に「救急車」という言葉の手話を想像して作ってみる。 救急車を呼びたいけれど、たまたま手話のわかる人しかいなかった場合、どう伝えるか？自分なりに手話を考える。</p> <p>NHK手話辞典のリンクを送り、答えを検索する。 https://www2.nhk.or.jp/signlanguage/syllsear.cgi で「救急車」検索して、使い方を知る</p> <p>救急車は、バリエーションのたくさんある手話でもあり、 https://www.youtube.com/watch?v=IX0joDe4ZAA&feature=emb_logo 参加者の発想、連想が、本物の手話とつながる部分を強調＝「手話のようなもの」を自作できる感覚を持ってもらう。</p> <p>最後に「拍手」の手話を共有し、 今日の発表の反応に使えるようにしておく。</p>	20	30
19:30	鑑賞	<p>作品の掲載サイトをチャットに送り、鑑賞を始める 「言葉にする」5分 https://www.artic.edu/artworks/80594/sita 後に発表してもらうので、鑑賞しながら、見たこと、考えたことを言葉にする。紙にメモする</p>	10	40

19:40	共有	<p>*今回は人数が多く、少人数のスタッフでオペレーションが困難だったため、ブレイクアウトルームは使わず、感想を共有しました。</p> <p>PCやタブレットの人 メモしたことを書き出し、チャットで送信する <5分></p> <p>スマホの人 佐藤と対話し話してもらう 2人くらい <5分></p> <p>チャット全体の確認 <5分></p>	15	55
19:55	3つの言葉	<p>これまでの自分の言葉や、他の人の言葉を含め、作品と関わる中で出会った印象的な言葉を3つ選ぶ、もしくは創造する。</p> <p>3つの言葉は意味などの因果関係が明確であっても、ただの羅列、意味を持たないものでも良い 「大きな 気持ちが 蘇る」「たばたば ならなら がん」など</p>	5	60
20:00	休憩		5	65
20:05	翻訳	<p>3つの言葉を手話で表す。 手話辞典サイトを参照し、なるべく近い意味で翻訳する。 3つの言葉を任意の順番で連続して手話で表せるようにする。 *手話や翻訳の正確さを求めるものではない。 サイト内の情報で納得できるものが制作できなければ、自分で手話のようなものを開発しても良い。</p>	15	80
20:20	発表	<p>奇数・偶数で分け、全体の半数が一気に、手話を発表する。 3回づつほど交互に行う。</p>	5	85
20:25	発表2	<p>全員で一緒に、 3つの手話の連続をスピードを変えてながらやってみる。 3つを1分間でできるだけ遅く、できるだけ早く3連続でやる 3つの動きが統一された動きになるように。</p>	5	90
20:30	翻訳2	<p>休憩をはさみ、最後に一人ひとり、手話+感想を発表してもらう。</p> <p>これまでのことを踏まえつつ、鑑賞作品や、鑑賞を通して自分が経験したことに立ち返り、3つの手話の動きを一つの統一された動き（パフォーマンス、体操、ことば、踊り）のようなものとして、表せられるようにしておく。 どんなテンポで、順番で、表情で、ニュアンスで伝えればよりよいものになるのか考えて制作する。 <u>意味などよりも、表現していて自分が心地よいことを重視する</u></p> <p>言葉の意味と動きの関連は自由に扱い、無視することも可能＝新しい解釈で新たな動きを加えたり、省略することも可能。＝最終的には手話から始まった、手話でもない動きになるように。</p>	5	95
20:35	休憩	完成してない人は翻訳2を続ける。	5	100

20:40	発表	1人ずつ、動きを発表。解説し、佐藤がレスポンス	45	145
21:25	総括・コメント	総括	5	150
21:30	終了・放課後	まだ残れる人は30分ほど 雑談		



<感想など>

一昨日は、ありがとうございました。
とっても面白かったです！

私一人が受ける予定だったのに、徐々に画面の真ん中の座を娘に奪われてしまい、いつの間にか私は画面の端っこに。

でも娘は楽しかったようで、終わった後に「また参加したいなー。」と言っていました。

本当は昨日のプログラムも「面白そうだな。」と思っていたのですが、予定が入っていて参加できませんでした。

でも、ぜひまた受講させて下さい！

それと、受講してすごく心に残ったことがあるので、後ほどお伝えさせて下さい。
プログラムを通して、新しい発見がありました！

受講して良かったです！

まずはお礼まで。

おはようございます。

少し遅くなってしまいましたが、先日のプログラムで感じたこと、心に残ったことを伝えさせて下さい。

プログラムを通してずっと考えていたのは、自分のコミュニケーションについてです。

今まであまり考えたことがなかったけど、もしかしたら私は、自分と違う考えを聞くことがすごく面白く感じるのかもしれない、という発見がありました。

他の人が感じるイメージで絵を見ると、別の雰囲気絵に見えてきて、何となく頭の中の自分の世界が広がるような感覚がしたんです。

1枚の絵なのに何通りもの絵に見えてきて、それがすごく面白かったです！

自分の考えを伝える、他の人の考えを知る、どんな考えでも間違いではないから受け入れる、違いがあればあるだけ面白い、だから楽しい。

私が楽しく感じるコミュニケーションは、こういう状況なんだなあと、プログラムの一連の流れから発見することができました。

佐藤さんの意図とは離れているかもしれませんが、作品を見ることで自分を見ることができるということを実感し、それがとても心に残りました。

うまく言えないけど、面白い感覚でした。

今まで体験したことのない楽しくて面白い時間を過ごさせて頂き、ありがとうございました！

私も娘もまた受講したいと思っていますし、夫も今度は自分が受けてみたい言っています。

また受講すると思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

=====

昨日はありがとうございました！

自分なりの感想を。

- ・絵画と手話という今まで結びつかなかったものが結びつく新鮮さと斬新さに新たなアートの可能性を感じた
- ・感じる、調べる、表現するという過程が比較的スムーズな流れで段々と面白くなっていった
- ・通常何かを自分なりに表現するというのはかなり難しいが、手話という型があることで簡単に表現できた
- ・オンラインというのが、人に見られているようで見られていない、実際の周りの目を気にしない雰囲気が作られて思い切った表現に繋がった
- ・子供は手話の動きそのものが軽易でできるのですぐ順応できた
- ・佐藤さんも言っていましたが、オンラインそのものが、手話という視覚に訴える表現ととても親和性があるとおもいました
- ・子供にとって単純に体を動かすこと自体が楽しかったようだ
- ・かといって絵を忘れたわけではなく絵自体にも興味があったようだ
- ・大人はその絵の意味を知りたがるが子供は意味なんてどうでもよくそういうものと勝手に考えて動いていた
- ・時間が遅かったのは子どもにとってマイナスだが、決して長いと感じるプログラムではなかったようだ
- ・ただ、他人の発表はほぼみてない
- ・個人的には絵の解釈、背景が最後に聞けると、動いたぶん印象にのこり、他の絵も見てみたいなおもったとおもう。
- ・発表もあの形でやるとすれば昨日くらいの人数がMAXかなと思う
- ・手話に興味を持った

- ・最後に全身で表現することの意味的な話があると締まったのではないかな
- ・パソコンから出ないとむずかしいかなと。

とりあえずそんなところですよ。

こちらこそありがとうございます。
また参加させていただければありがたいです。

オンラインゲームとかオンラインで授業受たりリモートワークもほとんどやったことがないのですが、リアルと違って枠の外では何やってもいいわけで、ある意味気楽に途中は抜けられるという自由がある反面主催側はある程度繋ぎ止めないといけない工夫が必要で、そのあたりただ一方的に伝えるという講義形式だと飽きられちゃいますよね。かといって参加者側もふらっときたわけではなく素性もバれているのでなかなか思い切っていなくなる勇気も持てず、みたいな。そう思ったひとは次からは参加しないかなと。

なかなか考えると奥が深いなと、オンラインワークショップ。

また、よろしくをお願いします！
=====

お礼が遅くなりました。
昨日はお疲れさまでした。
参加させていただいて、とても楽しかったです。ありがとうございました。
手話を練習していて、フラダンスの練習をしているような気分になってきて、ダンスってそもそもコミュニケーションだよな〜と思い至ったり、皆さんの手話を見ていて、一つの絵からこれだけのバリエーションができることや、それが修練されて絵の違った解釈に繋がることなど、とても興味深かったです。
悠さんの視点からだとさらにその先にある何かが見えているのかもしれないですね。
昨日の実験がどう形を変えていくのかとても興味があります。

=====

本日は、あたたかいご対応をありがとうございました。
色々な発見ができました。

アートと手話をつなげるアイデアは初めて体験しました。
美術館で視覚障害のある方と一緒に鑑賞をするプログラムについては知っていましたが、聴覚障害のある方もこういった方法と一緒に鑑賞したら、世界が広がりそうですね。

ワークは皆さんそれぞれ個性が出ていて、楽しんでいるご様子にほっこりしました。兄妹コンビが可愛かったですね。
また、コロナ禍で身体での表現を楽しむ機会も少なくなっているのでオンラインでもちょっとしたダンスのように楽しめるのも素敵だと思いました。

また機会がありましたら、今度はちゃんと参加したいと思います。

ありがとうございました😊

=====

<個人的振り返り>

- ・子どもたちの反応が印象的だった。

体を動かすワークは以前からも行っていたが、楽しい反面、どんどんカオスになってゆく傾向がある＝今回は手話＝伝わる・伝えることの面白さという、枠組みがあったので、散漫にならず、最後までついてきてくれたように感じる。

2組とも飛び入りの子どもも参加だったが、2時間半最後までついてきたのは本当に驚いた。

- ・「子供向け」という体裁ではなく、大人がメインターゲットで、子どもも参加していいよという形の実施形態の方が、子どもたちも集中しやすいのかもしれない??

- ・最後の制作で、もっと表現を全身へ展開させる＝手話という枠組みから更に離れた最終型でも良かったのでは？

- ・もしくは、更にメタな目線をもたせる＝画面を鏡に見立てて、自分の像や動きを客観的に見て検討させる。などあったほうが良かったかもしれない。画面のフレームを使ったり、家の身の回りにある日用品を使ったりしても良かったかもしれない。

「手話」という枠組みがどこまでうまく使えたのかは課題が残るかも。

- ・それぞれが手話辞典を調べて翻訳するパートでは、だんだん参加者全体が手話リサーチへのめり込んでゆく感覚が画面上でも見て取れ、あの部分の入りは非常に良かったと思う。

- ・やはり人数が多く、フォローしきれない部分も感じた。10名以下に人数を絞って、フォローを手厚くもう少し丁寧に表現のやり取りがあればなと感じる。